

「心の鏡」を反芻する

1. 「4つの約束」

右掲は、広島の木原先生の「ディリーメッセージ」に取り上げられていた記事を要約したものです。私は「4つの約束」と呼んでいます。どれも「当たり前」な事柄なのですが、意外に守れないものばかりです。しかも、4つとも根っこの部分は共通しているのです。芳野社長は、自らを戒める意味でもベーカリー・ショップを目指して巣立って行く職人さんに贈っているのだと私は推測しています。

北九州市の木輪(パン屋)が
独立開業する社員へ贈る言葉

- ①「約束・規則は必ず守る」
- ②「継続は克己なり」
- ③「困難な道を選ぶ」
- ④「言行一致」

芳野社長

私は、この「4つの約束」を拝見して直感的に思い浮かべたのは山本五十六元帥の「やってみせ、いって聞かせて、させてみて、褒めてやらねば人は動かじ」の言葉なのです。海軍は、基本は船の上という狭い世界で共同生活をするのですが、そういう限定された世界でも「率先垂範」でリーダーシップをとる事が重要なのです。「パン屋」を目指す方も同じで、自分が「お山の大将」になってしまうと「率先垂範」という謙虚さがなくなってしまい、傲慢さが大きくなって「4つの約束」を自分だけは良いという特別ルール化してしまうのです。

仮に、「4つの約束」を否定してみると「約束・規則は破る」「人には継続を要求するが自分に甘い」「楽な方へ流される」「言う事がブレている」などとなるのです。どれ一つとして良い結果に導くものはないのです。社員や仕入先は「お金」で繋がっている部分がありますが、お客様は何も言わずにソッポを向いてしまうのです。これでは、お店が繁栄する訳がないのです。

2. 「鏡」を持つ

右掲は、89年5月、当時、勤務していた会社が物流センターを立体自動化した時に、工事を請け負った竹中工務店が現場に掲示した「心の鏡」と題した訓であります。この「心の鏡」というのは、非常に重要なものです。会社ならば、経営理念や行動指針という類のものが相当するものと思います。

私は、92年に関連会社に転職していますが、この時に関連会社での生活を「原点」という事で

「心の鏡」

外見のゆがみには、なかなか気づかないけれども、鏡を見れば、外見のゆがみには気づくことができる。
心の中は、鏡では映し出す事はできない。いつも「心」の中に鏡を持って注意しよう。

竹中工務店の工事現場より

1. 自分の健康回復
2. 天職を追究
3. 家庭生活を充実

という「3つの原則」を書いています。この「3原則」が「心の鏡」に相当するもので、私のセルフ・チェックの「物さし」になっているのです。特に、「天職を追究」と書いていますが、これが自分では一番重要な事と考えているのです。当時、関連会社で営業部の次長として「営業」にチャレンジしながら、「売り玉」づくりとして日本LCAの「DIPS」を導入して、SE部門でSFAのようなソフト開発を開発し、自らは船井総研で客員経営コンサルタントを目指して「船井流」を勉強したのです。

その後、この「天職を追究」という事で、95年に独立開業したのです。お蔭様で、それから15年が経過して、2の「天職の追究」を追い続けることで、1の「自分の健康回復」も3の「家庭生活を充

実」(?)も手に入れることが出来たように思います。

3. 「心の鏡」でブレない

私は、経営コンサルタントとして独立する時に、谷本先生という先輩コンサルタントから「毎日、必ず目につく場所に貼り付けて、声を出して復唱しなさい」と教えて頂きました。「心の鏡」と「3原則」を手帳などに貼付して実践して来ました。「セルフ・エスチーム」という言葉がありますが、毎日、自分の行動を反芻して「おれは、天職をまっとうしているんだ」と気分を良くして一日を終えるようにしています。

「4つの約束」は、ベーカリー経営を目指す職人さんに芳野社長が人生訓として贈ったものですが、職人さんたちも、毎日、「4つの約束」を反芻することで「ベーカリー経営」が自分の天職であるという強い思いを固めて行くものと思います。反芻するたびに、芳野社長の教えの奥深さも知るようになって思うのです。

このように、「生き方」でブレがないようにして行くことが重要なのです。人生は、山谷を繰り返すのですが、「山」の時にも、「谷」の時にも外部から「甘い誘い」がやって来るのです。この「誘い」に対応する為にも自分の基準となるものをシッカリと持っておく必要があるのです。個人では「心の鏡」であり、会社では「経営理念」や「行動指針」というものです。

これを毎日、反芻する事によって各自の判断基準となって行くのです。何度も何度も反芻することによって、どんどん深く理解するようになって「信念」のように強固なものになって行くのです。「哲学」と呼べば、少し大袈裟かも知れませんが、そういう「ブレ」のない骨格になっていくのです。

4. 「成功の方程式」

右掲は、私が「成功の方程式」と呼んでいる松下幸之助さんが販売店に贈った「訓」に書かれているものです。このポイントは、「行動」に移して、その「行動」が習慣化するまで徹底して実践を繰り返すと「人格」すなわち「評判」が変わり、運命が変わるという事であります。

「心の鏡」や「経営理念」・「行動指針」も作っただけでは、無意味なのです。毎日「反芻」して「信念」化することが重要なのです。朝礼で「経営理念」などを唱和している会社が多いのですが、その唱和の繰り返しで社員さんの心に深く根付いているかという点をチェックする必要があります。社員さんの「心」に根付いたら、幸之助さんの訓のように、その会社の運命が良い方に変って行くのです。

毎日の反芻で、真の「心の鏡」や「経営理念」・「行動指針」を自分のものにする事が重要なのです。「継続は力なり」です。毎日の反芻を習慣化して頂きたいと思います。

「訓」 心が変われば、行動が変わる 行動が変われば、習慣が変わる 習慣が変われば、人格が変わる 人格が変われば、天命が変わる 松下幸之助さんの訓

【まとめ】

1. 「訓」は自ら実践しないと他人に浸透しない
2. 自分なりの「心の鏡」や会社では「経営理念」や「行動指針」をもつ
3. 「心に鏡」や「経営理念」・「行動指針」を毎日、反芻することで信念化する
4. 個人でも会社でも「信念」にまで高まれば運命が変わる

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryu.html> でご覧になれます！】